

高温・少雨に伴う農作物等の管理対策について

令和8年8月25日
富山県農業技術課

8月24日に新潟地方気象台より「長期間の高温と少雨に関する北陸地方気象情報 第1号」が発表されました。気温の高い状態は今後1か月程度続き、今後2週間程度は少雨の状態を解消するほどのまとまった雨が降る可能性は小さい見込みであることから、農作物等への影響が懸念されます。

このため、農作物や家畜について以下の管理対策を徹底願います。

1 共通管理

- (1) 用水が下流域まで行き渡るように、地域での計画的かつ効率的な水利用に努める。

2 水稲

- (1) 出穂後20日間の湛水を徹底する。なお、湛水状態の維持と効率的な水利用のため、畦畔や水尻等からの漏水を防ぐとともに、かけ流しは行わない。
- (2) その後は、胴割米の発生を防ぐため、刈取り5～7日前まで間断かん水を行う。なお、フェーンが予想される場合は事前に入水する。
- (3) 早生品種は刈取時期を迎えていることから、刈遅れによる胴割米の発生を防ぐため、刈取適期を確認し速やかに収穫する。
- (4) 中生品種は、刈遅れによる胴割米の発生を防ぐため、ほ場毎に刈取適期を把握し、籾黄化率80%から刈取りを開始する。
- (5) 乾燥作業では、ゆっくりとした乾燥（毎時乾減率0.6%以下）により、急激な籾水分の低下を防止し、玄米水分14.5～15.0%に仕上げる。特に、乾燥時の外気温が高く湿度が低い、張込量が少ない等の場合は急激に籾水分が低下するため、こまめに籾水分を確認しながら通風乾燥や二段乾燥を行う。

3 大豆

- (1) 落花・落莢を防ぐため、降雨に頼らず積極的にうね間かん水を行う。
- (2) ハダニ類の発生を確認したら、速やかに防除を行う。

4 ハトムギ

- (1) 干ばつに弱いため、葉が巻き始める前に速やかにうね間かん水を行う。

5 園芸作物

【野菜】

- (1) 白ねぎでは、軟腐病の発生を防ぐため、土寄せと追肥は行わない。ただし、9月中下旬に収穫するため土寄せが必要な場合は、朝夕の涼しい時間帯に行う。
- (2) さといも、青ねぎ、えだまめ等の露地栽培では、土壌が乾燥しないよう、定期的に朝夕の涼しい時間帯にうね間かん水を行い、うね内の土壌水分が確保されたか確認し、速やかに落水する。
- (3) にんじんでは、スプリンクラー等によるかん水に努め、適正な土壌水分を維持し、株立数を確保する。
- (4) キャベツ等の定植は、定植直前の苗に十分かん水を行うとともに、定植後は活着するまでかん水を行う。
- (5) 施設栽培では、遮光や換気等の昇温抑制対策を徹底する。
- (6) ヨトウムシ類やアザミウマ類、ハダニ類の発生を確認したら、速やかに防除を行う。

- (7) 収穫は早朝等の涼しい時間帯に行い、収穫後は直射日光が当たらない作業場等で、速やかに調製する。また、高温下では鮮度劣化が早まるため、予冷库等を活用し品温を下げるとともに、1日で調製できる分だけを収穫する。

【果樹】

- (1) 露地栽培では、無降雨日が5日程度続いた場合、速やかにかん水を行い果実の肥大を促す。ただし、収穫が近づいている品目では、かん水を控える。
- (2) 根域制限栽培では、朝夕の涼しい時間帯に加え、土壌の乾きに応じて日中もかん水する。
- (3) 土壌の水分蒸散防止のため、草刈りをする場合は7cm程度の高刈りを励行するとともに、苗木、幼木では敷わらやマルチ等を設置する。
- (4) 太枝には直上の新梢を多めに残す、又は白塗剤を塗布するなど、樹体の日焼け防止に努める。
- (5) ハダニ類やカメムシ類の発生を確認したら、速やかに防除を行う。
- (6) なし等は、品温が高くなならないように涼しい時間帯に収穫し、収穫物は直射日光に当てない。

【花き】

- (1) 球根類では、貯蔵庫内が高温となり過ぎないように風通しをよくするとともに、腐敗球根等の除去を徹底する。
- (2) 小ギク等では、収穫後の葉のしおれを防ぐため、切り花の収穫は朝夕の涼しい時間帯に行い、前処理剤を用いて十分に水揚げする等、鮮度保持に努める。
- (3) 施設栽培では、遮光や換気による昇温抑制対策を徹底する。
- (4) ヤガ類やヨトウムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生を確認したら、速やかに防除を行う。

5 家畜

- (1) 飼養密度の緩和、送風機による畜体等への送風、細霧装置による気化冷却などにより、家畜の体感温度の低下に努める。
- (2) 換気扇による換気、寒冷紗やよしずによる日除け、屋根への散水や消石灰の塗布などにより、畜舎環境の改善に努める。
- (3) 給水器を清潔に保ち、新鮮な水（冷水）を十分に給与する。
- (4) 高温により飼料が変質・腐敗していないか確認し、良質な飼料の給与や涼しい時間帯の給餌、ビタミンやミネラルの補給に努める。
- (5) 家畜をよく観察し、異常畜の早期発見・早期治療に努める。

6 熱中症対策

- ・日中の暑い時間帯は外での農作業を控える。やむを得ず、日中に農作業を行う際は、熱を逃がしやすい衣服を着用するとともに、作業はできるだけ複数で行い、こまめに水分補給するなど、熱中症等に十分に留意する。
- ・また、従業員を1人でも雇用している事業者は、熱中症の重篤化を防止するための対策として、早期発見の体制整備や実施手順書の作成などを行う。

【事務担当】

農業技術課	研究普及・スマート農業振興係	076 (444) 3277
	広域普及指導センター	076 (429) 5042